

欧州社債ファンド Aコース(為替ヘッジあり)

<愛称: グラン・マルシェ>

設定日: 2014年8月19日

償還日: 2025年2月5日

決算日: 原則毎月15日

収益分配: 決算日毎

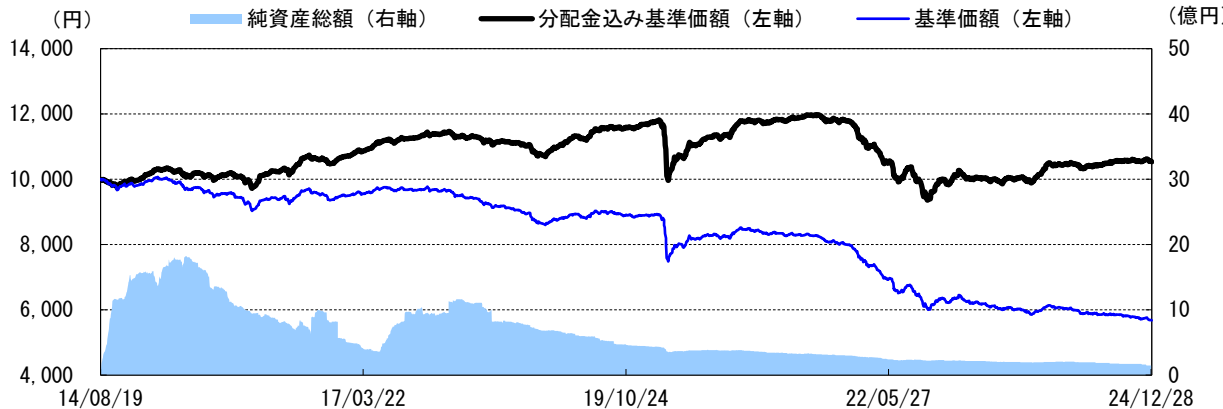
基準価額: 5,677円

純資産総額: 1.45億円

※当レポートでは基準価額および分配金を1万円当たりで表示しています。
 ※当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、
 それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。
 ※当レポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

運用実績

<基準価額の推移>



※分配金込み基準価額の推移は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものである点にご留意ください。
 ※基準価額は、信託報酬（後述の「手数料等の概要」参照）控除後の値です。

<資産構成比率>

ヨーロッパ・ストラテジック・コーポレート・ボンド・ファンド・クラスA	97.0%
マネー・アカウント・マザーファンド	0.1%

<基準価額の騰落率>

1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
-0.25%	-0.28%	1.05%	0.39%	-10.52%	5.38%

※基準価額の騰落率は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものである点にご留意ください。

<分配金実績（税引前）>

設定来合計	直近12期計	24・1・15	24・2・15	24・3・15	24・4・15	24・5・15
4,960円	480円	40円	40円	40円	40円	40円
24・6・17	24・7・16	24・8・15	24・9・17	24・10・15	24・11・15	24・12・16
40円	40円	40円	40円	40円	40円	40円

※分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。
 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。

<基準価額騰落の要因分解（月次ベース）>

前月末基準価額	5,731円
当月お支払いした分配金	-40円
要	
インカムゲイン	27円
キャピタルゲイン	-1円
為替要因（為替ヘッジコスト/プレミアム要因を含む）	-35円
因	
信託報酬・その他	-5円
当月末基準価額	5,677円

※要因分解は、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

欧州社債ファンド Bコース(為替ヘッジなし)

<愛称: グラン・マルシェ>

設定日: 2014年8月19日

償還日: 2025年2月5日

決算日: 原則毎月15日

収益分配: 決算日毎

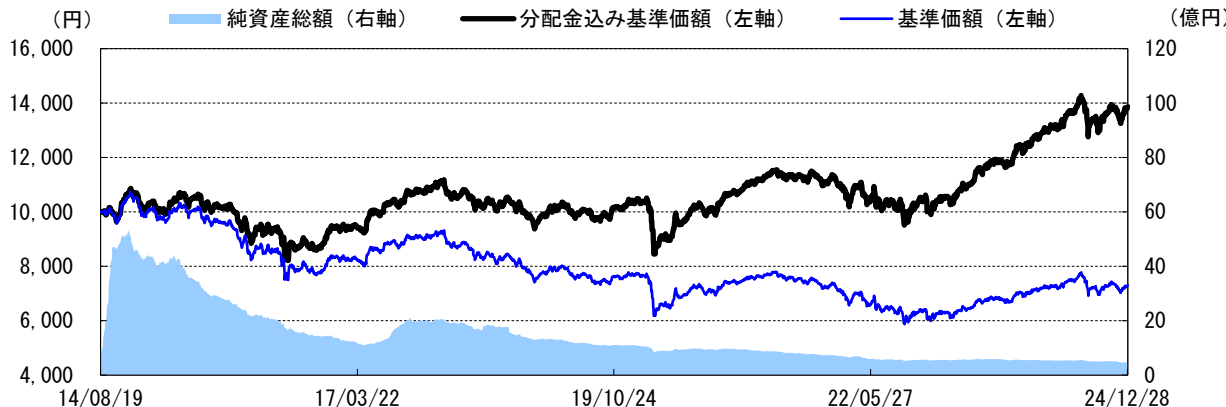
基準価額: 7,303円

純資産総額: 4.66億円

※当レポートでは基準価額および分配金を1万口当たりで表示しています。
 ※当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、
 それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。
 ※当レポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

運用実績

<基準価額の推移>



※分配金込み基準価額の推移は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意ください。
 ※基準価額は、信託報酬（後述の「手数料等の概要」参照）控除後の値です。

<資産構成比率>

ヨーロッパ・ストラテジック・コーポレート・ボンド・ファンド・クラスB	97.3%
マネー・アカウント・マザーファンド	0.1%

<基準価額の騰落率>

1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
3.05%	3.78%	-0.63%	11.61%	23.15%	38.62%

※基準価額の騰落率は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意ください。

<分配金実績（税引前）>

設定来合計	直近12期計	24・1・15	24・2・15	24・3・15	24・4・15	24・5・15
4,960円	480円	40円	40円	40円	40円	40円
24・6・17	24・7・16	24・8・15	24・9・17	24・10・15	24・11・15	24・12・16
40円	40円	40円	40円	40円	40円	40円

※分配金額は、委託会社が基準価額水準、市場動向などを勘案して決定します。
 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。

<基準価額騰落の要因分解（月次ベース）>

前月末基準価額	7,126円
当月お支払いした分配金	-40円
要	
インカムゲイン	34円
キャピタルゲイン	-3円
為替要因	203円
因	
信託報酬・その他	-18円
当月末基準価額	7,303円

※要因分解は、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧下さい。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

ヨーロッパ・ストラテジック・コーポレート・ボンド・ファンド

※日興アセットマネジメント ヨーロッパ リミテッドより提供された情報です。
 ※以下は当外国投資信託における数値です。比率は当外国投資信託の純資産総額比です。

<通貨別構成比率>

通貨名	比率
ユーロ	56.2%
イギリスポンド	43.8%
日本円	0.0%
アメリカドル	0.0%

<国別構成比率>

国名	比率
イギリス	38.0%
ドイツ	20.2%
フランス	12.8%
スペイン	6.5%
イスラエル	3.2%
その他	19.3%

<業種別構成比率>

業種	比率
金融	24.8%
通信	23.8%
生活必需品	17.7%
一般消費財	11.8%
公益	8.4%
その他	13.5%

<格付別構成比率>

AAA	0.0%
AA	0.0%
A	17.7%
BBB	35.4%
BB	24.4%
B以下	20.0%
平均格付	BBB

※格付は、S&Pを採用しています。なお、格付を取得していない場合は、日興アセットマネジメント ヨーロッパ リミテッドが付けた格付を採用しています。
 ※平均格付とは、データ基準日時点で当外国投資信託が保有している有価証券などに係る信用格付を加重平均したものであり、当外国投資信託に係る信用格付ではありません。

<ポートフォリオの特性値>

直接利回り	5.81%
最終利回り	6.14%
デュレーション	3.15年

※利回りは、個別債券について加重平均したものです。
 ※最終利回りは、債券を次回早期償還日もしくは満期日まで保有した場合の利回りです。
 ※利回りは将来得られる期待利回りを示すものではありません。
 ※デュレーションは、次回早期償還日を考慮した値です。

<組入上位10銘柄> (組入銘柄数：33銘柄)

	銘柄	通貨名	利率(%)	償還日	次回早期償還日	格付	比率
1	AA Bond Co. Ltd.	イギリスポンド	8.450	2050年7月31日	2027年10月31日	BBB-	3.6%
2	British Telecommunications plc	イギリスポンド	8.375	(永久債)	2028年9月20日	BB+	3.5%
3	Ocado Group PLC	イギリスポンド	10.500	2029年8月8日	2026年8月8日	A-	3.5%
4	CaixaBank, S.A.	イギリスポンド	6.875	2033年10月25日	2028年7月25日	BBB-	3.4%
5	Deutsche Bank Aktiengesellschaft	イギリスポンド	7.125	(永久債)	2026年4月30日	BB	3.4%
6	Heathrow Finance Plc	イギリスポンド	6.625	2031年3月1日	2030年12月1日	B+	3.4%
7	Centrica plc	イギリスポンド	6.500	2055年5月21日	2030年2月21日	BB+	3.4%
8	888 Acquisitions Limited	イギリスポンド	10.750	2030年5月15日	2026年5月15日	B-	3.3%
9	Barclays PLC	イギリスポンド	3.250	2027年2月12日	-	BBB+	3.3%
10	Teva Pharmaceutical Finance Netherlands II BV	ユーロ	7.375	2029年9月15日	2029年6月15日	BB-	3.2%

※個別の銘柄の取引を推奨するものではありません。

※上記銘柄については将来の組入れを保証するものではありません。

※格付は、S&Pを採用しています。なお、格付を取得していない場合は、日興アセットマネジメント ヨーロッパ リミテッドが付けた格付を採用しています。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

運用コメント ※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

◎市場環境

12月の円/ユーロ相場は、前月末比で円安/ユーロ高となりました。月初に日銀が金融政策決定会合で追加利上げに踏み切るとの思惑が強まったことなどが円高要因となったことや、欧州中央銀行（ECB）が追加利下げを実施したことなどがユーロ安要因となったものの、日銀総裁が金融政策決定会合後の記者会見で早期の利上げに慎重な姿勢を示したと受け止められたことなどが円安要因となり、円安/ユーロ高となりました。

イギリスポンドは円に対して上昇しました。英国の鉱工業生産や小売売上が市場予想を下回ったことなどがイギリスポンドの重しとなったものの、イングランド銀行（BOE）が根強いインフレの可能性に対応すべきとの判断から追加利下げを見送ったことなどがイギリスポンドの上昇要因となったことに加え、日銀総裁が金融政策決定会合後の記者会見で早期の利上げに慎重な姿勢を示したと受け止められたことが円安要因となり、イギリスポンドは円に対して上昇しました。

ノルウェークローネは円に対して上昇しました。ノルウェーの鉱工業生産が堅調な結果となったことや消費者物価指数（CPI）が市場予想を上回ったことなどからノルウェーの長期金利が上昇したことがノルウェークローネの支援材料となったことに加え、日銀総裁が金融政策決定会合後の記者会見で早期の利上げに慎重な姿勢を示したと受け止められたことが円安要因となり、ノルウェークローネは円に対して上昇しました。

スウェーデンクローナは円に対して上昇しました。スウェーデンの中央銀行が追加利下げを実施したことがスウェーデンクローナの重しとなったものの、スウェーデンの長期金利が上昇したことがスウェーデンクローナの支援材料となったことや、日銀総裁が金融政策決定会合後の記者会見で早期の利上げに慎重な姿勢を示したと受け止められたことが円安要因となり、スウェーデンクローナは円に対して上昇しました。

12月の欧州債券市場では、各国の10年債利回りは前月末比で総じて上昇（債券価格は下落）しました。ユーロ圏の消費者物価指数（CPI）速報値が市場予想を下回ったことなどが利回りの低下（債券価格は上昇）要因となったものの、欧州連合（EU）加盟国が防衛のための共同資金について協議しており、拠出金増のため債券市場を活用する可能性があるとの報道が警戒されたことや、欧州中央銀行（ECB）が利下げを実施したものの今後の利下げペースの加速について否定的な見解を示したと受け止められたこと、追加利下げを実施した米国連邦準備制度理事会（FRB）が今後の利下げペースについて鈍化の見通しを示したことなどから、10年国債利回りは総じて上昇しました。

ユーロ建て投資適格債のスプレッドは、当月中旬までに年初来で最もタイトな水準に達し、反発してわずかに拡大しましたが、前月末比で縮小しました。ユーロ建て投資適格債の第4四半期におけるトータルリターンは、ドイツ国債利回りの上昇をスプレッドの縮小が相殺したことからプラスとなり、2024年通年のトータルリターンを押し上げました。各格付け全体でスプレッドは縮小し、格付けの低いユーロ建て投資適格債がわずかにアウトパフォーマンスしました。ユーロ建てハイイールド債のスプレッドは当月前半に縮小し、年初来で最もタイトな水準に達し、その後拡大しましたが、前月末比で縮小しました。ユーロ建てハイイールド債のリテールファンドには、第4四半期だけで34億ユーロの資金が新たに流入しました。同資産クラスに対する根強い需要が続くなか、2024年通年では総計130億ユーロ近い資金が流入しました。同資産クラスの好調なパフォーマンスを考えると、これは意外なことではありません。

◎運用概況

当月の基準価額は、前月末と比べて、「為替ヘッジあり」がマイナス、「為替ヘッジなし」がプラスとなりました。当月末時点でポートフォリオに33の発行体の債券を組み入れています。当月は発行市場には参加せず、様子を見ました。また、米州、欧州、アジアにまたがるグローバル市場や各地域の市場で産業用不動産の所有、運営、開発を行う企業の社債を売却し利益を確定しました。

◎今後の見通し

欧州では、欧州中央銀行（ECB）が政策金利の引き下げを通じて金融緩和を続けることが予想されるなかで、金融環境は概ね緩和的な状況が続いています。ECBは12月の理事会で市場予想通り0.25%の利下げを決定しましたが、これを受けて市場では、今後も追加利下げが実施されることが予想されています。市場がトランプ氏の米大統領再選による潜在的な影響への対応に苦慮するなかで、足もとの欧州の経済指標は強弱が混在した内容となっています。ユーロ圏の第3四半期のGDP成長率は前期比0.4%増となりました。その要因には、スペインが堅調な成長を維持したことや、フランスにおいてパリ五輪の特需効果により経済成長が押し上げられたことなどがあります。一方、ドイツは2四半期連続で前期比マイナス成長となるテクニカルリセッション入りを回避しましたが、前四半期のGDP成長率は下方修正されています。また、イタリアでも経済成長が低迷しており、個人消費を中心に内需が第3四半期のGDP成長率にプラス寄与した一方で、投資の縮小や純輸出がGDP成長率の足を引っ張る結果となりました。ドイツの欧州経済研究センター（ZEW）の現況指数は足もとの小幅に弱まりました。また、12月の購買担当者景気指数（PMI）は、先行き懸念が強まる内容となり、製造業PMIは45.1と引き続き低迷しています。一方で、サービス業PMIは小幅に上昇して51.6となり、景気拡大・縮小の分かれ目となる50を上回りましたが、総合PMIは依然として景気縮小圏に沈んでいます。インフレ率はほぼ予想通りに推移しているように思われ、12月のユーロ圏消費者物価指数（HICP）の上昇率（速報値）は前年同月比2.4%と前月から小幅に加速しましたが、コアCPIの上昇率は前月から横ばいの同2.7%になっています。

英国では、労働党政権が英国議会に示した秋季予算案は、予想以上に積極財政型となりました。財政支出増加の財源の約半分は税収により、残り半分は借入金により賄う計画となっています。予算責任局（OBR）は、この予算政策によって短期的にGDP成長率と消費者物価指数（CPI）がそれぞれ一時的に押し上げられるものの、その効果は数年間で消失すると見込んでいます。英国経済は2024年の第3四半期に低迷しており、第4四半期のPMIや月次のGDP成長率においても景気回復が示唆されることはあまり期待できない状況ですが、総合CPIの上昇率はイングランド銀行（BOE）による利下げ期待の支援材料となっています。しかし、サービス価格の上昇率は前年同月比5.0%と高止まりしており、BOEは12月の金融政策委員会（MPC）で政策金利を据え置くことを決定するなど、BOEの利下げに対する切迫感は薄れています。BOEはハト派（景気に対して弱気）姿勢を維持していますが、秋季予算案がBOEの見通しに影響を与える内容となったことを受けて、BOEは緩やかなペースで金利正常化に向けた取り組みを維持し、賃金やサービス価格の上昇率が予想外に下振れすることが続かなければ、四半期毎に1回程度の利下げ実施にとどめる可能性が高くなっています。翌日物金利スワップ（OIS）市場では、BOEが2025年に追加利下げを実施する可能性を織り込みつつあります。

当ファンドは今後も、リサーチを重視したボトムアップの銘柄選択手法を用いて割安な債券への投資を継続する方針です。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

ファンドの特色

1. 主として、欧州企業が発行する社債*に投資を行ない、インカム収益の確保と信託財産の成長をめざします。

■ユーロ圏、英国および北欧の欧州先進国企業が発行する社債*を中心に投資を行ないます。

* S&P、ムーディーズまたはフィッチの格付で、投資適格社債だけでなく、BB+格相当以下のハイ・イールド社債にも幅広く投資します。

2. 日興アセットマネジメント ヨーロッパ リミテッドが運用します。

■債券運用において、長年の経験を持つ日興アセットマネジメント ヨーロッパ リミテッドが、当ファンドの主な投資対象である外国投資信託の運用を行ないます。

3. 「為替ヘッジあり」と「為替ヘッジなし」の2つのコースがあります。

■為替変動リスクの軽減を図る「為替ヘッジあり」と、為替変動の影響を直接受けることで、円安時に為替差益が期待される「為替ヘッジなし」の2つのコースがあり、お客様の運用ニーズに応じてお選びいただけます。

※販売会社によっては、一部のコースのみの取扱いとなる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

4. 原則として、毎月、収益分配を行なうことをめざします。

■主に、組入債券の利子収入や値上がり益などを原資として、毎決算時に収益分配を行なうことをめざします。

■毎月15日（休業日の場合は翌営業日）を決算日とします。

※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行わない場合もあります。

市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

■お申込みメモ

商品分類	追加型投信／海外／債券
購入単位	販売会社が定める単位 ※販売会社の照会先にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
信託期間	2025年2月5日まで(2014年8月19日設定)
決算日	毎月15日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
購入・換金申込不可日	販売会社の営業日であっても、下記のいずれかに該当する場合は、購入・換金の申込み(スイッチングを含みます。)の受付は行いません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ・英国証券取引所の休業日 ・フランクフルト証券取引所の休業日 ・ルクセンブルクの銀行休業日 ・ロンドンの銀行休業日
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
課税関係	原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。 ※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 ※公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度(NISA)の適用対象となります。 ※各ファンドは、NISAの対象ではありません。 ※配当控除の適用はありません。 ※益金不算入制度は適用されません。

■手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

<申込時、換金時にご負担いただく費用>

購入時手数料 購入時の基準価額に対し3.3%(税抜3%)以内

※購入時手数料(スイッチングの際の購入時手数料を含みます。)は販売会社が定めます。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。

<<ご参考>>

(金額指定で購入する場合)

購入金額に購入時手数料を加えた合計額が指定金額(お支払いいただく金額)となるよう購入口数を計算します。
例えば、100万円の金額指定で購入する場合、指定金額の100万円の中から購入時手数料(税込)をいただきますので、100万円全額が当ファンドの購入金額とはなりません。

※上記の計算方法と異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

(口数指定で購入する場合)

例えば、基準価額10,000円のときに、購入時手数料率3.3%(税込)で、100万口ご購入いただく場合は、次のように計算します。

購入金額=(10,000円/1万口)×100万口=100万円、購入時手数料=購入金額(100万円)×3.3%(税込)=33,000円となり、購入金額に購入時手数料を加えた合計額1,033,000円をお支払いいただくこととなります。

※販売会社によっては、一部のファンドのみの取扱いとなる場合やスイッチングが行えない場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

換金手数料

ありません。

信託財産留保額

ありません。

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

**運用管理費用
(信託報酬)**

純資産総額に対し年率1.663%(税抜1.57%)程度が実質的な信託報酬となります。

信託報酬率の内訳は、当ファンドの信託報酬率が年率1.023%(税抜0.93%)、投資対象とする投資信託証券の組入れに係る信託報酬率が年率0.64%程度となります。

受益者が実質的に負担する信託報酬率(年率)は、投資対象とする投資信託証券の組入比率や当該投資信託証券の変更などにより変動します。

その他の費用・手数料

目論見書などの作成・交付および計理等の業務に係る費用(業務委託する場合の委託費用を含みます。)、監査費用などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。

組入る有価証券の売買委託手数料、資産を外国で保管する場合の費用、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託財産から支払われます。

※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。

※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■委託会社、その他関係法人

委託会社	日興アセットマネジメント株式会社
受託会社	三井住友信託銀行株式会社
販売会社	販売会社については下記にお問い合わせください。 日興アセットマネジメント株式会社 [ホームページ] www.nikkoam.com/ [コールセンター] 0120-25-1404 (午前9時~午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

■お申込みに際しての留意事項**○リスク情報**

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者（受益者）の皆様に帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に債券を実質的な投資対象としますので、債券の価格の下落や、債券の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

投資対象とする投資信託証券の主なリスクは以下の通りです。

【価格変動リスク】

- ・ 公社債は、金利変動により価格が変動するリスクがあります。一般に金利が上昇した場合には価格は下落し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。ただし、その価格変動幅は、残存期間やクーポンレートなどの発行条件などにより債券ごとに異なります。

【流動性リスク】

- ・ 市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。

【信用リスク】

- ・ 公社債および短期金融資産の発行体にデフォルト（債務不履行）が生じた場合またはそれが予想される場合には、公社債および短期金融資産の価格が下落（価格がゼロになることもあります。）し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。また、実際にデフォルトが生じた場合、投資した資金が回収できないリスクが高い確率で発生します。
- ・ 一般にハイイールド債券は、上位に格付された債券と比較して、利回りが高い反面、価格変動が大きく、デフォルトが生じる可能性が高いと考えられます。

【為替変動リスク】**◆為替ヘッジあり**

- ・ 投資対象とする外国投資信託の組入資産については、原則として為替ヘッジを行ない、為替変動リスクの低減を図ります。ただし、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。なお、為替ヘッジを行なうにあたっては、円の金利が為替ヘッジを行なう通貨の金利より低い場合、この金利差に相当するヘッジコストが発生します。為替および金利の動向によっては、為替ヘッジに伴うヘッジコストが予想以上に発生する場合があります。

◆為替ヘッジなし

- ・ 投資対象とする外国投資信託の組入資産については、原則として為替ヘッジを行わないため、当該資産の通貨の対円での為替変動の影響を受けます。一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

※ファンドが投資対象とする投資信託証券は、これらの影響を受けて価格が変動しますので、ファンド自身にもこれらのリスクがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

○その他の留意事項

- ・当資料は、投資者の皆様へ「欧州社債ファンド Aコース（為替ヘッジあり）／Bコース（為替ヘッジなし）（愛称：グラン・マルシェ）」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- ・当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- ・投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- ・投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書（交付目論見書）などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

設定・運用は 日興アセットマネジメント株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第368号
 加入協会：一般社団法人投資信託協会
 一般社団法人日本投資顧問業協会

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会				
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	
株式会社SBI証券 ※右の他に一般社団法人日本STO協会にも加入	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第44号	○		○	○
株式会社SBI新生銀行 （委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券）	登録金融機関	関東財務局長（登金）第10号	○		○	
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第164号	○		○	
三井住友信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長（登金）第649号	○	○	○	
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。

※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。

収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

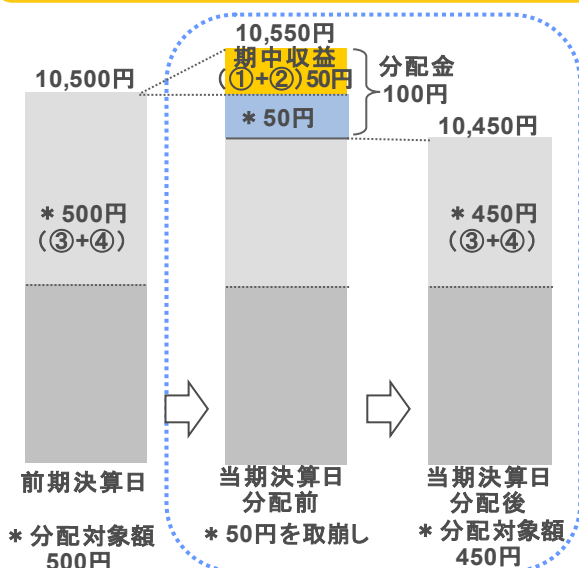
投資信託で分配金が支払われるイメージ



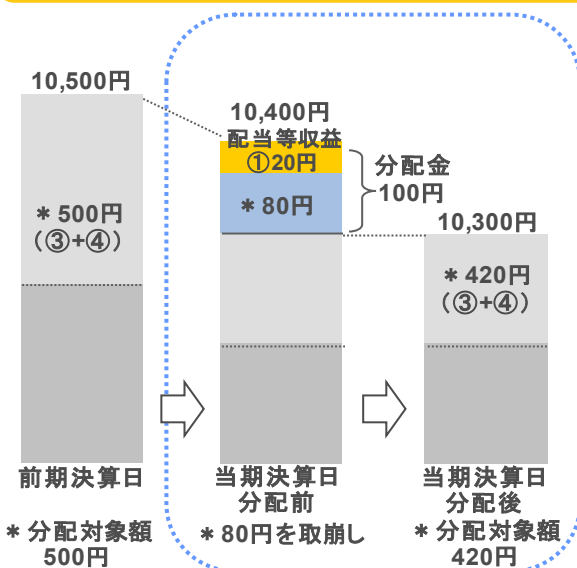
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算から基準価額が上昇した場合



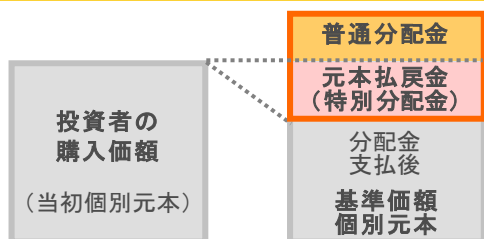
前期決算から基準価額が下落した場合



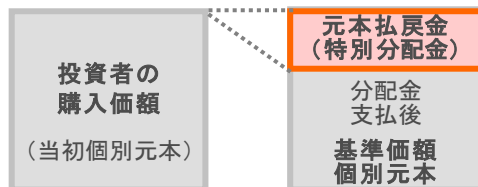
(注)分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。
 ※上記はイメージであり、将来の分配金の支払いおよび金額ならびに基準価額について示唆、保証するものではありません。

- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

- 普通分配金 : 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。
- 元本払戻金 (特別分配金) : 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。